

世界史 B 学習指導案

指導教員 :  
授業者 :

1. 日時 平成 30 年 6 月 1 日 (金) 第 3 校時 (10:45~11:35)
2. 学級 2 年 5・6 組 (男子 6 人、女子 15 人 計 21 人)
3. 場所 2 年 6 組教室
4. 教材 『新詳世界史 B』(帝国書院)、『最新世界史図説タペストリー』(帝国書院)
5. 単元名 3 章 南アジア世界の形成 (「ヴェーダ時代のインド社会」、「都市の発展、思想的活況を背景にした帝国の形成」、「東西交易・交流と文化的発展」)
6. 単元の指導計画  
3 章 南アジア世界の形成 (4 時間)  
「南アジア世界」、「インダス文明」…1 時間  
「ヴェーダ時代のインド社会」、「都市の発展、思想的活況、帝国の形成」  
「東西交易・交流と文化的発展」…1.5 時間 (本時は、1 時間目)  
「古典文化の開花とヒンドゥー教の波及」…1.5 時間

7. 生徒観

本クラスは世界史を学ぶことに関して意欲的な生徒が多く、面白いと感じたテーマについては興味を示し、積極的に授業を聞こうとする姿勢が見られるが、難しいと感じたものには距離を置くように感じる。そのため、生徒に興味・関心を持たせるための工夫を授業内に取り入れていきたい。発表については、積極的に発表をする生徒は少なく、自らの考えを持っていても、全体に伝えるのではなくペアワークの内で完結させることが多い。机間指導では、生徒の良い発言や気づきを見つけ、発表を促したい。また、発表しやすい雰囲気を作ることも必要である。

8. 教材観

本時はヴェーダ時代から 3 世紀頃までのインドの思想・宗教について学ぶ。アーリヤ人の民間宗教であったバラモン教を否定する中でウパニシャッド哲学、ジャイナ教、仏教などが成立し、特にウパニシャッド哲学の考えは、以後の宗教・思想に大きな影響を与えていく。特に仏教は当時の王朝の政治にも結びつく考え方であり、後に世界三大宗教と呼ばれるまでに発展した。本時は、バラモン教以後の宗教について学ぶと共に、現在インドで信仰されている宗教を考えることで、現在との繋がりを意識させたい。

9. 指導観

本時は古代のインドの思想・宗教の考え方を理解し、現在とどのように繋がっているのかについて考える。ヴァルナ制はジャーティと結びつき、カースト制として現在も残る。バラモン教以降誕生した宗教の多くは今日のインドでも信仰されており、現在との繋がりを確認させたい。また、各宗教の特徴については、内容が難しい場合は生徒にも伝わりやすい言葉を選び、視覚教材を上手く活用して学習させたい。

10. 本時の目標

- ・古代インドで成立した様々な思想・宗教の特徴から、現在との繋がりを考察することができる。
- ・古代インドに誕生した宗教の考えを通じて、現在とどのように繋がっているのかを自分の言葉で表現することができる

11. 評価の観点と評価の規準

評価の観点	評価の規準
関心・意欲・態度	・ペアで課題に取り組むことができる。 ・自分の考えを発言することができる。
思考・判断・表現	・古代インドの宗教や思想が現在とどのように繋がっているのか考え、自分の言葉で説明することができる。
技能	・提示された写真や図表から、その宗教の特徴に着眼し、他の宗教との結びつきについて説明することができる。
知識・理解	・古代インドで宗教が発展していく過程を理解することができる。 ・古代インドで誕生した宗教の考えが現在にどう繋がっているのかを理解することができる。

本時の指導過程

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5 分	○本時の目標の確認  ○インドとは	MQ: 古代インドに誕生した宗教の考えを通じて、現在との繋がりを自らの言葉で表現する  Q1. インドについて知っていることを言ってみよう 予想解答 カレー、象、ヒンドゥー教 数学、ヨガなど	・どんなことでも良いので積極的に答えてもらう ・30 秒個人で考え、30 秒ペアで意見を共有 ・4、5 人答えてもらう
展開 I 15 分	古代インドに成立した宗教・制度を理解し、現在との繋がりを考える  ○ヴェーダ時代のインド社会 ・アーリヤ人の移動  ・社会の階層化に伴い、ヴァルナ制が誕生したことを理解する	・アーリヤ人の移住によって社会の階層化が進み、ヴァルナ制が誕生  口頭発問：なぜアーリヤ人は西部から、東部へと移住したのか？	教科書・資料集の所持を確認

	<p>ヴァルナ制の仕組みを知り、現在との繋がりを考える</p> <p>○ヴァルナ制の特徴と現在との繋がり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァルナ制がジャーティと結びつき、カースト制に繋がることを理解する</li> </ul>	<p>Q2. ヴァルナは色を意味するが何の色を表しているのか?</p> <p>→肌の色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァルナ制は当初、アーリヤ人と非アーリヤ人を区別するものであったことを伝える。</li> <li>・ヴァルナ制が後に細分化され、ジャーティ（現在：カースト制）を形成することに触れ、現在との繋がりを意識させる</li> <li>・現在、生まれによる差別は禁止されているものの、差別が残っていることに触れる</li> </ul>
	<p>バラモン教の後世への影響</p> <p>○バラモン教の後世への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バラモンがヴァルナ制の秩序の維持を図り、自己の権威を高めた結果について考える</li> </ul>	<p>口頭発問：一カ所に権力が集まると、その他の人々はどう感じるか?</p> <p>→嫌な気持ち、不満 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バラモンの権威を高めたことが他の階級の不満を高め、新たな考えが生まれたことを気づかせたい</li> </ul>
<p>展開Ⅱ 20分</p>	<p>新たな思想の誕生と後世への影響を考える</p> <p>○新たな思想の誕生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な宗教の特徴を知り、多様性に関心を持たせたい</li> <li>・クシャトリヤ（王侯・武士）、ヴァイシャ（商人）が力をつけ、バラモン教を批判した新たな宗教・思想が誕生したことを理解する</li> </ul>		<p>資料集 p.79 を参考させる</p>

	<p>ウパニシャッド哲学の特徴を知り、後世への影響を考える</p>		
	<p>○ウパニシャッド哲学とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウパニシャッド哲学はバラモンの権威を否定し、後のジャイナ教・仏教などの宗教に影響を与えたことを理解する</li> <li>・ジャイナ教の思想と現在との繋がりを理解する</li> <li>・仏教の思想とブッダの生涯について理解する</li> <li>・ヒンドゥー教の思想と現在との繋がりを考える</li> </ul>	<p>・輪廻転生、解脱、業の考え方が後の宗教に影響を与える</p> <p>Q3. 不殺生とはどんな考え方だろうか?</p> <p>→（例）命あるものを殺してはいけないという考え方 ジャイナ教徒の写真を見る</p> <p>・ブッダの像の写真を見る 口頭発問：なぜこんなに痩せているのか? →断食、不眠などの苦行を行っていたから</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウパニシャッド哲学は生を苦だと考え、解脱を目指す →後の宗教にも同様の考えが見られる</li> <li>・不殺生の意味を考えさせるため口を覆い、箒で床を掃きながら歩く ・徹底した苦行によって解脱を目指す</li> <li>・ブッダの生涯の話をして、苦行を行って悟りを開こうとしたことを伝える</li> <li>・ヒンドゥー教は、バラモン教と民間宗教が結びついて成立した</li> </ul>
<p>まとめ 10分</p>	<p>各宗教と現在との繋がりを考える</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在インドで信仰されている宗教をグラフで確認し、現在との繋がりについて考える</li> </ul>	<p>Q4. 現在もインドで信仰されている宗教は?</p> <p>→ヒンドゥー教、仏教、ジャイナ教など</p> <p>Q5.現在のインド国内の信者の割合を考えてみよう</p> <p>→ヒンドゥー教 79.8% イスラーム 14.2% 仏教 0.7% ジャイナ教 0.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他イスラームやキリスト教なども信仰されている</li> <li>・古代インドでは仏教の信仰が多く見られたが、やがてヒンドゥー教が広く信仰されるようになることを伝えておく</li> </ul>